

〔史料紹介〕

関藩年譜 上

中村正己

はじめに

関藩年譜 上は、野田市関宿奥原信様家の所蔵史料である。現在は当館に寄託されている。

奥原家は江戸期、関宿藩主久世家と代々縁戚関係にあり、始祖の又次郎は、久世廣之が関宿城に入封する以前より、相模国の津久井役人として三十人扶持で役職を与えられていた。そして二代目以降は三太夫を襲名し、廣之が関宿に襲封後は関宿藩の勘定頭、御目付等の要職を勤めた。幕末時、秀之助は佐幕派として「彰義隊」の中の「万字隊」に加わり戦死されている。

「関藩年譜 上」は、豎冊で豎二二三センチメートル、横十七センチメートル、総頁数は百七頁で、作成者は不明である。

内容は、慶長十四年（一六〇九）から享保三年（一七一八）までの百九十年間の関宿藩主久世家初代廣之、二代重之の両名による家譜並びに藩の事蹟簿である。所々に追記（小文字）や久世系譜との相違点等も記されている。

翻刻に当たっては、判読出来ない文字は記号（■）を使用し、

宛字は「ママ」また括弧書（ ）で正字に改めて「カ」とした。句詠点は適宜に付した。異体字はカタカナ字で表記した箇所もある。

なお、この史料は、三回に分けて紹介する予定である。

関藩年譜 自慶長十四

至享保三

慶長十四己

酉

十二月廿七日 廣之君於武州多麻郡南沢村御誕生 三之丞様与奉称。

同十五庚

戌

同十六辛

亥

同十七壬

子

同十八癸

同十九甲 丑
寅

元和元 乙卯 正月朔日改元。

月日 御父三左衛門様より御令為付加藤四郎左衛門盛英九歳ニ
而御奉公、伊藤半右衛門忠次茂御奉公。

同貳 丙

辰

同三 丁巳

月日 秀忠公江初而、御目見被仰上御本丸。

同四 戊

午

同五 己

未

同六 庚

申

同七 辛

酉

同八 壬戌

正月御具足御着始、三左衛門様御手自被為召。

月日 家光公之御小性ニ蒙 仰十四歳。

此分條御筆御參図ニハ不相見。

同九 癸亥

七月十三日御上洛御供。

大久保利房筆記ニハ御父兄様ニ付有之

寛永元 申子 一月晦日改元。

八月 日御小組被御番入。

同二 乙

丑

同三 丙寅

三月十九日三左衛門様御逝去、号真性院殿。

同日 三四郎様御家督無御相違五千石余。

御拝領唯今迄三四郎様御部屋住科御高五百石

廣之君御拝領之。

八月日御上洛御供。

同四 丁卯

正月日 御膳奉行被蒙仰。

△御膳箸。

同五 戊

辰

同六 己

巳

同七 庚

午

同八 辛

未

同九 壬申

正月廿四日 秀忠公御他界。

十二月日 御書院番江御番替。

寛永十 癸酉

十二月日 中奥御番被蒙仰。

同十一 申戌

六月日 御小納戸被蒙仰。

同日御上洛御供御下向之節、道中ヨリ痢病御煩。

御帰府以致御全快。

同十二 乙亥

十一月十七日 御徒頭被蒙仰。御系譜ニハ十一月卜計有之。

月日 下河辺次郎太夫御小性可被罷出。

同十三 丙子

四月日 權現様廿一回御忌ニ付 家光君日光御社參御供。

十二月廿九日 御叙爵被蒙仰大和守様与御改。△十二月二而事

○月日浅井八郎右衛門御祐筆被召出。

寛永十四 丁丑

○四月日水野貞右衛門御小性ニ被召出。

同十五 戊寅

十一月十一日御小性組番頭被蒙 仰。

同十六 己卯

二月廿一日御母常連様御逝去。

同十八 辛巳

○正月小田部弥次右衛門御徒士江召出、名瀬谷伊左衛門与言。

○二月高木厂助 三四郎様ヨリ御徒士ニ被仰付。

○同月富田久太夫播州ヨリ出府、御由緒之者故被差置、後隱居遠遊与改。

八月三日 家綱公御誕生。

同月十八日於 御前御加増五千石御拝領之上総之内、權津領、

長南領。

△八月迄斗△南領大多喜領与有之 但多喜領与有之所ヨリ重之君御奉公

也。

○四月四日 木村正右衛門御小性被召出、名勝部數馬与書。

○四月四日 中田与右衛門御徒士江被召出。

○四月四日 富田久太夫、加藤四郎左衛門兩人初而年寄役被仰付。

○九月 亀井清左衛門御小性被召出。

○同月 植松七郎左衛門馬役江召出。

九月日於代官町御屋敷御拝領。

総藩記事書

代官丁御邸ハ戸田爰女守様御邸跡之由、是迄ハ廣之君、廣當君之御邸被御

閉居之由、廣當君御鄭ハ馬場先御門角式軒日後赤塚御門ノ内ニ替ル。

月日戸田因幡守忠能様御養女御縁組。

寛永十九 壬午

十月上旬日 若州小濱城主酒井讚岐守忠勝様被

御用之儀有之為、上使御發駕御所司代板倉周防守重宗様、大阪

御城代阿部備中守正次様江も御用有之、上意御達。

十一月下旬御帰府。

○二月 杉本瀬兵衛御徒士江被召出。

○四月 中田伊太夫同。

同廿癸未

正月日二ノ輪、三ノ輪御殿御作事並平川御虎口石垣御普請惣

奉行被蒙仰。

御手傳

松平新太郎光様、酒井河内守忠清様、阿部豊後守忠秋様、安藤右京進

重長様、牧野右馬充忠成様 内藤帶刀忠久様、内藤志摩守忠三郎様、大

田備中守資宗様、

御作事奉行

船越三郎四郎水景、八木勘十郎米直、牧野織部成常。

御普請奉行

庄田小太郎安照、朝比奈源六吉高

七月下人旬御普請成就御移徒御祝儀有之於御座之間、御刀延壽

国吉代金十五枚御仰預之。

○月日川越友右衛門御小性被召出名齊藤友之助。

○月日二俣勘十郎御料理人被召出。

○月日石塚安左衛門御徒士被召出。

正保元 甲申 十二月十六日改元。

月日於鶴様御出生。

同二 乙酉

○月日玉江七右衛門被召出。

月日小嶋弥兵衛御小性被召出。

月日三浦弥左衛門被召出御廣間相勤。

十一月今関作太郎御奉公。

同三 丙戌

八月下旬幡州久能御宮并山下御殿場御見分御用被蒙 仰御発駕。

久能御宮時服用也、廣之君御帰府後牧野織部成常、林丹波勝正奉行被仰付。

九月下旬・上旬御帰月 日百助様御出生。

○十二月瀬尾惣兵衛御草履被召抱。

同四 丁亥 月 日於稻様御出生。

御系譜二八四月一日あり。
○十一月金子忠右衛門足輕江被召抱。
慶安元戌子 二月十五日改元。

○二月 山路久兵衛御徒士江被召出。
四月 権現様三十三回御忌二付御社参有之、依之山上山下御殿並小屋場可申付旨依上意 正月ヨリ御越四月迄度々御登。山中五城越前守和甫舟越三郎・四郎様永景石河三右衛門利政御目通。

日光御滞留之義候。(以下赤字) 日光江御引越■被成御座候。(以下赤字)
同月 御社参御供。

○四月式日 田中次左衛門御徒士江被召出。

○六月 古川兵左衛門被召出。

○十月 矢崎喜右衛門御料理人被召出。
九月八日 御懇意之上御加増五千石御拝領之相州海老名領武州小机領合御高老万石総州海保領。 総州海保領■拝領分有之。(以下赤字)

同月日 右御礼被仰上之 公方様江御大刀一幅御馬代黄金式枚、大納言様江同一枚、徳松様江同銀五枚大納言様、御代官様江銀五枚御献上。

○十一月 平井六兵衛御中間被召抱。

○十二月 香取市兵衛給人江被召抱。
○四月 丹羽十郎右衛門 同名松平権右衛門。

月日 於梅様御出生。
慶安二 己丑

○二月 館利左衛門御小性被召出 名和田市之進ト云。
九月日 高野山学侶方、行人方相論(争論 力) 於評定所数度御穿鑿落着被仰出依之為御仕置双方御墨印被下候為 上文廿七日御発駕。

十月十三日高野山江御着、右御暇之節御時服三御羽織一黄金式拾枚御馬黒毛御拝領之寺社御奉行松平出雲守勝陸様、御目付兼松下下総守様正直、駒井右京様親昌御同道御裁許被仰渡可和解相濟、夫より大阪御城中武具可改旨候、仰出大阪江御出兼松下下総守様同道、五日御逗留。

十一月日 御帰府。

○九月 木下城右衛門御徒士江被召出 名和田彦兵衛ト云。
慶安三 庚寅

同四 辛卯

○二月 岡喜兵衛被召出。
四月廿日 家光公御他界二付御剃髮。 日光江御発棺之節御供

於日光 五月六日御葬送。(以下赤字)
総藩記事書

朽木民部少輔植綱、牧野信濃守親成、藤堂撰津守三友廣之君与同ク御棺守護。

七月盆中御法事二付日光へ御参詣。
同月廿三日御帰府之處、由井正雪徒黨被露頭丸橋忠弥・河原十兵衛廿三日之被召捕依之廿四日ヨリ御吟味牧野佐渡守様親成与御出入江被蒙仰同類不残披召捕。 八月十日磔被行。
御書二十郎兵衛与有之。△七月分斗(以下赤字)

○月日 川田吉左衛門御右筆披召出。
承応元 壬辰 九月十八日改元。

△月日も無之。(以下赤字)

三月 御小性組御番頭御免 御馬方御支配披蒙 仰。

○同月 森平左五右衛門給人並披召出。

九月卜斗。(以下赤字)

九月十四日 戸沢庄右衛門、土岐与左衛門等企悪事候旨、訴人有之二付被召捕依之牧野佐渡守様迄御出入御詮議御用被蒙仰渡磔罪行。

○十一月 中村仁兵衛板前被召抱。

○同月 下河邊次郎太夫年寄役被仰付。

同二 癸己

月 日 於千代様御出生。

○四月 児玉金兵衛御奉公。

六月廿三日 内裏炎上依之御普請御用被蒙 仰御上京。

利房筆記書

内裏御普請御入用大改築積銀五千五百五十貫、同餘米九万三千石餘、一坪二大工百七人懸り、御手傳大名十四人、高五十万石、一兩二付百五拾坪之割合。

九月十八日 牧野佐渡守親成様、土屋但馬守数直様、内藤出雲守忠由卜御四人

家綱公御幼君二付、昼夜代々御近習可相詰旨蒙仰。 △為御近

習之長下有之。(以下赤字)

○十一月 野村源兵衛足輕被召抱。

○月 日 伊藤半左衛門年寄役被仰付。

○月 日 後藤左右衛門同断。

同三 申午

二月日 禁中御作事之儀二付、奉行中相談滞有之由、注進依之。

総書 御朱印御頂戴御書付も御頂戴趣。

三月四日 御暇御上京御時服四御羽織一、貫金五枚御拝領四月

三日御帰府。

利房筆記書

三月五日御発駕。△三月卜斗。(以下赤字)

○正月 中村市郎左衛門御徒士へ被召出。

○二月 西川弥左衛門 同。

○同月 山田惣右衛門 同。

○三月 桑原傳右衛門 同。

○二月 河原田作之助 同。

九月十一日於 日光山小性悦藏坊ヲ致害候付、為御詮議御登山廿一日御帰府。

利房筆記書

日光藏坊小性之由、十三日日光被御到着之旨、御奉書二有之。

○十月十八日 富田善右衛門御年寄役被 仰付。

○四月廿一日 足輕五人増含、式拾人二成。

明暦元 乙未 四月廿三日改元。

○二月 蒔田助之進御小性被召出。

月 日 小日向御屋敷御求七千七百六十坪余。

月 日 新堀御屋敷御拝領三千四百三拾坪余。

月 日 半弥様御出生。

二月廿六日 今度朝鮮人来聘二付、道筋為御見分大坂迄御越。

明暦二 丙申

七月十二日 於鶴様御病死。

御系譜二ハ明暦元年。

○十月十七日 加藤四郎左衛門病死。

十一月七日 於福様御儀遠山久太夫友春様江御縁組御願之通。

明暦三 丁酉

正月十八日 江戸大火、御本丸炎上依之石垣御普請御作事惣

奉行被蒙 仰牧野飛驒守忠成様、岡部美濃守様宣勝様御手傳、大手内、桜田、平川口北■橋、蓮池江惣門建之。

利房筆記書

正月十八日 本郷小石川ヨリ出火。十九日御本丸炎上。

御作事奉行 船越伊豆守永景、八木但馬守宗直、牧野織部匠成常

御普請奉行

堀半左衛門朝茂、永井弥右衛門直元、津田平左衛門延方

月 日新堀河岸通蔵邸十間丁迄云、此所舟大工共有之候処焼失、右大工共鉄炮州江被遣、右組一統御拝領。

四月十九日 小日向御邸臺■たれ之畑三反壹畝十三歩、其外芝野迄地主不心方ヨリ差上、依之不心■心夫婦之者江一生忒人扶持被成下。

同月四日 同断■たれ之畑三反三畝歩、其外芝野迄壹ヶ年金壹両貳分、他拾両四歩五リン相極、百姓六人方ヨリ御買求。

○十一月 宮崎長左衛門御弓と鍵取被召抱。

○月 富田久太夫依願隠居。

万治元戊戌 七月廿八日改元。

二月廿八日、於梅様御儀松平山城守江御縁組御願之通。

月 日 御天守臺石垣其外所々石垣御普請之奉行被蒙 仰。

△御普請奉行被 仰付候ニ而無之御普請成就之趣有之。(以下赤字)

御手傳

松平加賀守様綱利、細川越中守様綱利、丹羽左京大夫様光重、本多大内記様政勝、中川山城守様久活、小笠原信濃守様長次

△外御門之御手傳、相馬長門守勝胤、内藤豊前守信照、■弓伊勢守勝際(以下赤字)

下赤字)

△此之條不相見(以下赤字)

十二月廿七日 右御普請中骨折候由為御褒美黄金貳拾枚御拝

領。

万治二 己亥

△此之條不相見(以下赤字)

月 日 御本丸御殿御普請御用被蒙 仰八月廿九日出来、九月五日御本丸御普請成就二付、御移徒。

御手傳

松平出雲守直矩、伊達大膳大夫宗利、脇坂中督少輔安吉、龜井能登守滋藤政、松平日向信之、吉田右衛門様信房、九鬼■守隆昌、植村右衛門侯家貞。

△九月十五日トアリ。(以下赤字)御系譜二十月十一日

十一月十一日 御普請中骨折候旨、御態意之上五千石御加増、

拝領之合御高壹万五千石相州相原(相模原 力)領・野間領。

御自筆御書付二ハ、相原領五千石被計有之

○四月四日ヨリ御役被召抱候段、家来新兵衛ト相定。

○十一月十三日 足輕拾人増。合三拾人。

十二月十八日 於稻様遠山信濃守様へ御婚禮。

万治三 庚子

正月廿四日 御兄三四郎様御逝去。号学雲院殿。

四月四日 於梅様松平山城守江御婚禮。

御系譜二二月トあり。

六月十八日 重之君御誕生。勝之助与奉称。是迄之御出生様方

度々御ふ幸二付、水野下総守様御後室清雲院様御於子二御養。

十一月 西丸下 阿部伊予守様御邸御拝領三千六百廿八坪。

同月廿八日 御移徒元代官町御邸ハ定火消鄭二成。

総書十二月八移徒。

寛文元 辛丑 四月廿五日改元。

正月十五日 禁中炎上之由、牧野佐渡守ヨリ御注進依之、禁裏仙

同新院女院(以下赤字) 仮御殿等之儀佐渡守ト相談。可申付旨就、

上意廿二日夜御上京内廿八日御京着御暇之節、黄金廿枚御時服

ニ御羽織一御手付御拝領。

二月廿六日 御帰府御目見之節狸之皮三間御献上之。

△中旬

と有之。(以下赤字)

寛文二 壬寅

△廿六日(以下赤字)

二月廿二日 御旗本中惣支配被蒙 仰御加増五千石御拝領合

御高貳万石武州之内本牧領金沢領。△金沢領ト斗有之(以下赤字)

同日 土屋但馬守様同御役被蒙仰。

利房紀書

三月十二日御■■■方御用可承旨被承仰。

六月十九日 右御礼被仰上御太刀・馬代黄金三枚。

月 日 於本庄御下邸御拝領六千貳百五拾四坪余。

十一月十九日 小日向御邸坪数千貳百八拾坪代金六拾兩壹分

銀拾三兩邸主六人ヨリ御求。明曆三御求之御邸也一統二求。

○月 日 伊藤半右衛門依願隠居。

寛文三 癸卯

四月廿日 大猷院様十三回御忌二付。

家綱公 日光御社参御供。

六月六日 於大書院■■■有之。

八月十五日於 御登之間御幼少之節ヨリ御心易筈仕候二付、阿

部豊後守忠秋、秋葉美濃守正則同列御用可奉 旨被蒙仰。

御自筆御書之写

八月十五日御勤へ被為仰 大猷院様御取立無之迄當公方様御幼少際時分

ヨリ、御側迄相詰御心得被思召候間、阿部豊後守裕乘、美濃守別二御用可

承旨被仰。

九月廿二日 叙従四下。

同月廿六日 小日向御邸百四拾七坪、代金七兩貳分、屋敷主

助右衛門ヨリ御求以御■■■被成御邸一統二成。

○十一月十三日 後藤左右衛門病死。

寛文四 甲辰

二月十二日 次郎助様御出生。

四月八日 於 御前城主とも可被下候得供、当時帰城無之

旨 上意有之一統之御加増拝領之合御高四万石下総結城領相

州津久井郡武州川崎領 御手自 御朱印御頂戴之。 御条目上

包紙無之。

寛文五 乙巳

四月廿六日 於千代様内田出羽様江御縁組。

利房筆記書

寛文二年十二月七日 於千代様御縁組御願之通、御系譜も同断。

寛文六 丙午

正月廿日 於稻様御逝去。

△此之條不相見(以下赤字)

四月 日 武州府中明神御修復二付、御奉行可差出旨被蒙

仰。

九月十五日 後藤久左衛門宅へ御受

十二月廿六日 於千代様内田出羽守様へ御婚姻。

御系譜二ハ寛文五年五月トアル。

寛文七 丁未

十月三日 武州国府六品大明神御修復出来下、奉行二被差出

候角田作之右衛門、御時服二拝領之。

寛文八 戊申

寛文九 己酉

三月七日 若殿様初而、御目見於御黒書院御時服三、御大刀、

銀馬代被就、御歳十歳御披軒(見カ)松平備前守陸綱様。

六月廿五日 於御坐之間、老万石並総州関宿御城地御拝領之

合御高五万石。

七月八日 総州関宿御城地御在番新庄隠岐守様ヨリ受取之御

引渡御目付藤田八郎左衛門殿、伊藤勘之丞殿、御代官曾根五

郎左衛門為受取御人数騎馬之者三拾騎、惣人数六百拾人。下
河邊次郎大夫行茂、富田善右衛門定興、加藤求馬助盛證相勤之。

七月十四日 関宿被之御暇被蒙 仰。

同月十六日 御入部未明ニ御城者之旨、御書ニ有之。

同月廿八日 御船ニ而御参府

同月晦日 右御札御時服五御大刀、馬代金十枚ヲ以被 仰上
之。

八月八日 次郎助様御卒去。

○同月十二日 木村正右衛門、亀井清左衛門、伊藤傳太夫、後藤久左衛門年
寄役被 仰付。

同月十五日 五万石之御朱印御手自拝領之。

御朱印ニハ八月三日トアリ 御添目緑色紙無之。

○月 日 徒御藏頭以來金七兩二分。

寛文十 庚戌

○九月十八日 下河辺新右衛門年寄役被仰付。

六月廿八日 関宿御堀浚御伺之通。

八月廿六日 西丸下大久保出羽守跡御邸御預り。

十一年辛亥十二月廿九日トアリ (以下赤字)

十二月廿九日 殿様披仕 侍従。

○十月十四日 加藤求馬助御城代披 仰付。

寛文十一 辛亥

正月十日 於紀州頼宣公御逝去為御名代御使者丹羽十郎右衛
門披遣之。

月 日 関宿御本丸自先規有来之三階櫓大破ニ付、御願相

濟富士見御櫓之形以御建直五月十三日祈初。六月廿八日柱立。

六月 日 西丸下御拝借邸御用ニ付、被召上為代同所堀田備

中守様抱邸又々御拝借。

七月十一日 御三階棟上。

九月廿二日 御城米藏大破ニ付、公義御入用ヲ以御普請有之

香取市兵衛、谷甚五右衛門奉行相務。 大工頭 平井太右エ門

御三階御普請入用

惣ノ金七百四拾九兩貳分 銀貳兩貳分(分 力)計り

但内金拾九兩壹分 銀拾壹兩五歩(分 力)ハ埋門御入用

翌子年六月御勘定済

寛文十二 壬子

二月廿四日 奥様御逝去。号勝詮院殿。

四月廿八日 若殿様新御鄭へ御移徒。

申之上刻御城着旨御書ニ有之。

八月十日 殿様御用ニ付、日光江御発駕並宿江御立寄、同

十五日御出立、日光江御登山。 廿日諸堂御参詣。

即日日光御出立。鹿沼江御就、廿一日小山江御就 廿三日猿嶋郡村々御巡

見、泉田村桜之御願ハ此時他

同月廿二日 昼前関宿江御帰。同廿六日御帰府。

九月 日 関宿香取両社江鳥居御建立。

八月廿二日関宿於御奉献所の場平沢助左衛門鳥居空謝禮披仰付。

十二月十三日 若殿様江御具足上進。

御書之内御文言之写

昨昼前ニ参着候ニ付、家中之者之弓謝之者並足輕共ニ的いさせ見申候処、

存之外手間も能作法よく候ニ付、褒美■遣し候平沢助左衛門八千余り之

矢仕立枚(每 力)年遣候ニ付、御加増申遣候。

十二月 船ニテ利根川添下左右之村々御巡見。

延宝元 癸丑 九月廿一日改元 従是以下関宿御用筋有之。

正月十一日 若殿様恩具足召始、丹羽左京太夫様御家来矢田

与兵衛被召呼。

七月十一日夜、西川重太夫、山路市郎兵衛宅へ罷越、市郎兵衛ヲ討、其身

も手負依之遂吟味候處意得不分仰ニ付、翌朝重太夫切腹被仰付。

八月 日 江戸町大王神輿建立ニ付、金一枚御神納。

同月廿五日 戸田伊賀守様、三州田原ヨリ肥前嶋原江御所替

御不勝手ニ付、御家来十五人、御預給人式人高百五拾。石堀文

藏、中川金右工門、中小性大谷四郎右工門、大持次右工門、徒士格正木彦

九郎、岡納利右工門、川合為右衛門、足輕七人

九月十三日 国府六所大明神宝殿江七品御奉納。

義次登呂鏡 加志和利邸 賀須女加称 雲池龍鳳硯 龍鳳丸墨 龍宮鳥

青 壹作十二律

○十一月七日 利根川筋埋候付、堀際添番所建番人差置。

○十二月廿八日 若殿様御叙爵。出雲守卜相称。

延宝二 甲寅

正月七日 若殿様御叙爵之御禮以御大刀銀馬代被仰上之。

月 日 新田嶋御邸御拝領地二成、坪数貳万千六百六拾八坪

半、是ハ本所向邸御上被成候代り。

○八月廿一日 龜井清左衛門病死。

○十二月廿一日 御物頭唯今迄御関所番相勤候状、御免向後日ニ朝夕兩度ツ

ツ見廻。足輕共油断不仕難ニテ申付可被仰出。

延宝三 乙卯

但重之君御系図之内、此受印廣之君上野江御話被成候二付、四月十四日重

之君御座之間江被為有御尋之 上意有之趣相見。(以下赤字)

此ヨリ條不相見(以下赤字)

四月廿日 大猷院様廿五回御忌於東叡山御供奉有之依之、殿

様惣奉行被蒙 仰御宿坊常聖院。

閏四月十二日 日光御門跡様、毘沙門堂御門跡様、御招請二

付、上使石川美作守様御勤相詰拝領。

七月八日 土井能登守様御姫様、若殿様江御縁組御願之通。

八月廿八日 保料権六討(付力)一件 江戸ヨリ申來。

九月廿二日 能登守様江御結納被進之御使者加藤求馬助、副

使丹羽十郎右衛門。

十一月三日 禁裏御移徒二付御使者内藤又兵衛。

十一月十四日 於備前松平伊予守綱政様御家來大久保八郎大

夫母儀光照院不幸之旨申來ル。殿様御忌服被為請。

延宝四 戊辰

○正月十五日 日光へ之御使 瀧今左衛門被仰付。

○四月 御城御関所御番改帳入御覽、御組方帳も同。

○二月八日前正月十一日 御連歌情紙小郭天神可相納旨御差出候二付、昌福

寺へ相渡。

月 日 戸田伊賀守様御所司被蒙 仰二付。

寛文十三年御預被成候、御家來十五人御改二付帰參。

但大村次郎右衛門ハ御預り中病死。

九月 美濃様御病氣二付、御願為御保養相州津久井へ御越、

十月十四日御帰

十月十五日 在番婦乗船之面々■久保三太夫、高田右衛門兵輔、山口小一

真右衛門、小笠原甚右衛門、香取次郎大夫五人おえては、久永源兵衛殿御

知行船与及口論候段、御手船打節通惡二付、以書状申越、甚右衛門、小者

戸右工門少手負候由、依之解死人出不申候者踏つぶし可申段五人ヨリ申越、

彼地為隠小田部伊左衛門、岩下半左衛門、三田作左衛門足輕共召連罷越候

様申付、下り船にて差遣候然共尔先方解死人差出候に付、相手戸右工門兩

人共繩かけ召連罷帰。

阿久沢形部右衛門、高田弥五郎兵衛、山口与惣定而敵地へ而參候間為差止

候處役不申■者、惣ハもはや無断濟所へ罷成候二付、形部右衛門も差遣ス、

越石六郎右衛門、志賀八右衛門も無断濟所へ罷成。

○四月十六日 四ツ時過五人之者罷帰候二付、於会所一人ツツ口上奉之逼塞

申付、九ツ時過江戸へ為注進西川佐太夫差遣ス、月 日十八日佐太夫罷帰

形部右衛門儀ハ、求馬助次郎、太夫兩人受差図罷越候二付、其通可差置弥

五郎兵衛、与惣ハ無差図罷越相成、兩人共物頭役も相勤候様不届ニ、只今

閉門被仰付、五人之者も閉門被仰付候旨、御意之由於江戸久永源兵衛様江

御遊合(相カ)濟候付、解死人差戻戸右衛門儀ハ籠舎申付、源兵衛様ヨリ

橋本権左衛門之申伝罷成候付、右解死人、喜多山兵太夫相渡遣ス、越石六

郎右衛門、志賀八右衛門無断隅(濟カ)所へ罷越、其上遂吟味候處偽申

聞、重々不届思召奉之御暇被成下。

○十二月 横須賀浄泉寺へ金貳拾兩被下、田地調候様被仰付候處、横須賀領

雨垂村ニ而田地八石八斗六升調候旨相届。

十二月十五日 若殿様西丸御邸江御移徒。

延宝五 丁巳

正月廿二日 若殿様御婚姻御歳十八。御嫁女様御歳十六。土井様ヨリ御付人遠川庄左衛門。

二月九日 殿様右御礼被仰上御時服四御献上。

○正月十一日 御奥是院御祝候御條目御家中之面々へ申渡。

○四月十九日 今度御婚姻為御祝儀惣名代原四郎右衛門、高木銀助出府。

○三月十八日 内かし平左衛門、向かし作場へ差遣候、舟紛敷二付以来届故也、三日半時方立候事。

○四月朔日 関宿領ニ有之、女御関所通之儀、詮議之上年寄両人之判形ニ而通ニ可申旨申渡。

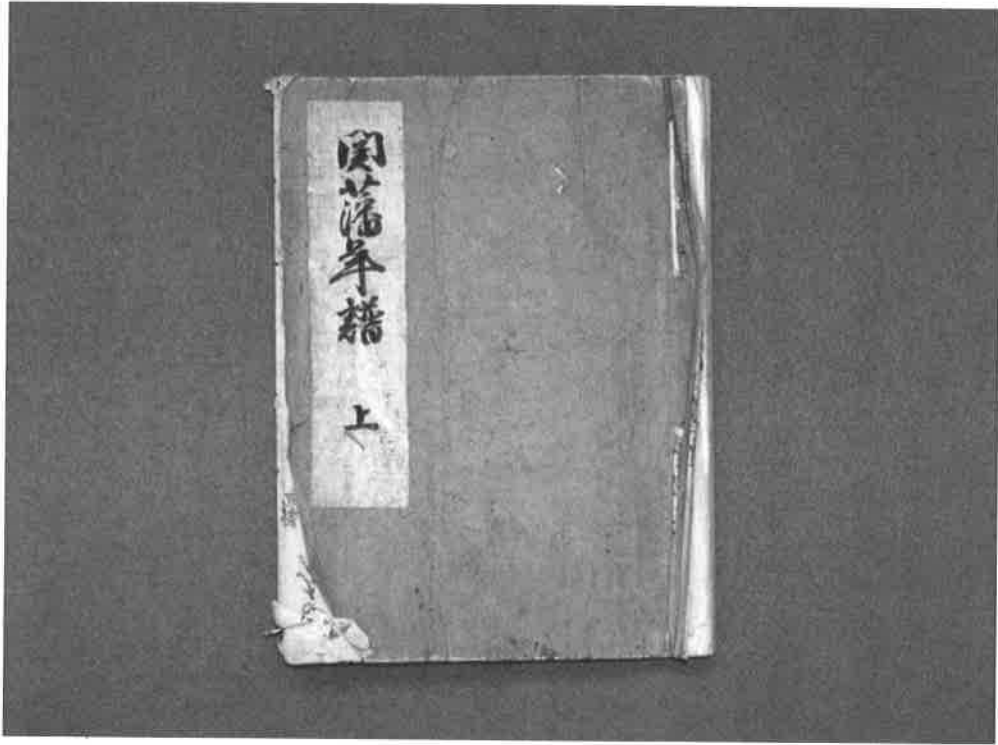
○五月廿七日 今橋角右衛門、斉藤喜右衛門ニ付、立退候付請人足輕差添相尋候事。

六月廿日 大久保甚左衛門様奥様御病死。

閏十二月十二日 若殿様奥様御安産。於冬様御生。

「次号に続く」

(なかむら・まさみ 当館展示協力員)



「関藩年譜 上」表紙



「関藩年譜 上」 寛文三年癸卯
久世家「小日向御邸」抱屋敷相求成る